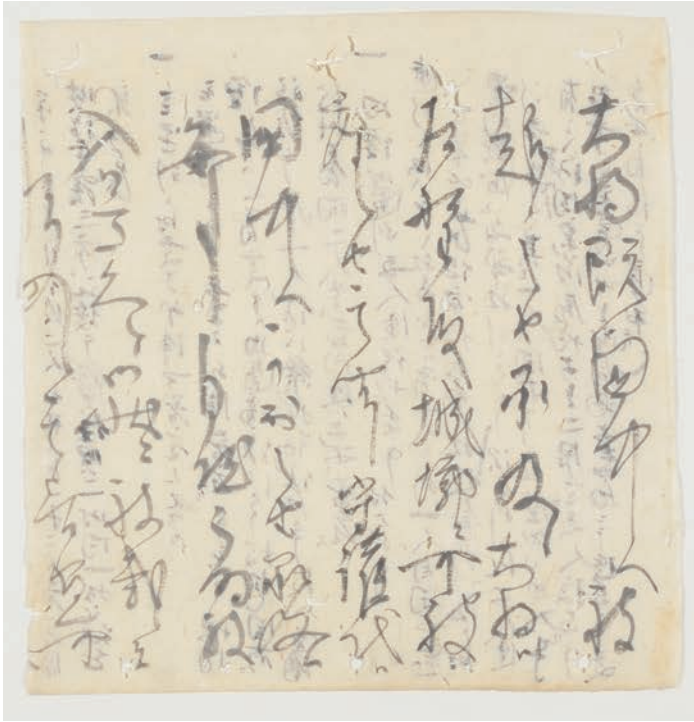


新収史料の出陳

神奈川県立金沢文庫で開催される特別展「法会への招待―「称名寺聖教・金沢文庫文書」から読み解く中世寺院の法会―」（二〇二二年一月二二日～翌年一月二九日）に本所の新収史料が出陳されます。

共同利用・共同研究拠点二〇二一年度一般共同研究「修理の知見を踏まえ、中世真言密教聖教・紙背文書の史料学的分析―灌頂記を中心に―」（研究代表者・三輪眞嗣氏）にて修補し、本所『研究紀要』三二二号（二〇二二年三月）に翻刻・研究を掲載した「延文五年桂宮院伝法灌頂私記」、本誌九二号（二〇二二年四月）にて紹介した醍醐寺地藏院旧蔵の古文書（建暦元年蔵人所御修法用途奉送状・建保六年孔雀経御修法卷数案）に加え、昨年度末購入の同じく地藏院旧蔵「五大虚空蔵法勤修事」です。



「延文五年桂宮院伝法灌頂私記」[0414-3] 紙背文書（解体中）

史料編纂所「二〇二三年カレンダー」のご案内

このたび、史料編纂所の二〇二三年カレンダーが完成しました。同年は日明関係史上の重要な事件である寧波の乱からちょうど五〇〇年後にあたるため、今回は史料編纂所が所蔵する史料の中から、室町・戦国時代の日本と明代の中国との交流にかかわるものを選びました。

日本最初の外交文書であり外交文書集である『善隣国宝記』、足利義満宛永楽帝勅諭の拓本、遣明使節の帰路の安全確保を図った足利義政の御内書、遣明使節選任にかかわる『蔭涼軒日録』残簡の紙背文書、明応度遣明船に参加した桂庵玄樹の詩文集『鳥陰集』、同船で来日した明人宋素卿と東福寺住持了庵桂悟との問答を記した『実隆公記』明応七年九月十四日条、近年研究が大きく進展した「倭寇図巻」、天文八年度・同十六年度遣明船で渡航した策彦周良にかかわる『策彦周良文集』の図版を掲載しております。

掲載できる点数が限られていたため、過去のカレンダーに掲載された史料は割愛しました。史料編纂所が所蔵している日明関係史料を網羅したものではありませんが、末尾に付した図版解説と合わせて、日本と明の交流の様子を感じ取っていただければ幸いです。

体裁はA4判中綴じ（上下見開きで縦A3判）のカラー印刷で、解説二頁を含む一六頁仕立てです。一部五一〇円にて、東京大学コミュニケーションセンター（史料編纂所の向かい）で販売いたします。

（史料編纂所広報委員

岡本 真）

